

地域の実情と課題

本市意識調査によると、女性の就業率は35～39歳が特に低く、全国値より深いM字を描いている。また、非正規雇用の割合が高く、かつ就業希望職種に偏りが見られることから、デジタルや理工系分野に選択肢が広げられるような学びの機会を提供し、柔軟な働き方に対応できる人材を育成することが必要である。

事業の特徴

1 課題に対応した事業を実施

多様な働き方を可能にするデジタル人材の育成を推進し、女性が個々の希望に沿った活躍をするための機会拡充を図った。

2 官民連携体制の構築

- (1) 地元大学等：講師派遣、講座企画立案協力
- (2) 民間事業者：講師派遣、情報提供、職場見学協力

事業の効果

1 事業KPI：31%（目標70%）

【講座を受講し、デジタル分野の仕事に就労した、応募したまたは、職業訓練等に参加した等次のステップに進んだ人の割合（アンケートによる回答結果）】

就職に有利な高難易度の企画設定が逆に就業への不安を煽り、就職活動に直結しなかったと想定される。その一方、学びを深める意欲ある行動者は69%だった。

目的・目標

○就業への資質向上、能力開発機会の充実

○希望する職種への就業機会の拡充

【目標】

- 1 仕事をしない理由が「仕事と家庭の両立困難」をあげる50歳未満の女性の割合(20%)（R7年度調査予定）
- 2 講座を受講し、次のステップに進んだ人の割合(70%)

連携団体

1 日立市各種女性団体連絡会

事業の広報協力及び実施結果の検証

2 リカレント教育体制構築企画会議

講座内容検討、結果の検証

3 茨城大学 講座企画サポート、講師推薦

4 いばらき就職支援センター

雇用や研修機会等の情報提供

今後の課題

1 学びの継続性の確保

資格取得支援や実践的な学びの機会を増やし、継続的な学習環境を整えることが必要。

2 キャリアパスの明確化

インターンシップの機会を提供できる協力企業を開拓し、一人ひとりの希望に応じた就業への道筋を明確化していく。

女性デジタル人材育成事業

希望に沿った就業の可能性を広げるためのデジタル人材育成講座の開催
 学習内容: プログラミング言語 Python(パイソン)

① プログラミング基礎学習(1回)

概要: Scratch(スクラッチ)を活用し、視覚的にプログラミングの構造を学習した。

② Python(パイソン)の学習(3回)

概要: ゲームなどの制作を通して、早く正しいタイピングを習得しながらプログラミングの組み方などの流れを学習した。サポートスタッフ2名を配置し、学習に遅れが出ないよう配慮した。

③ 企業訪問(1回)

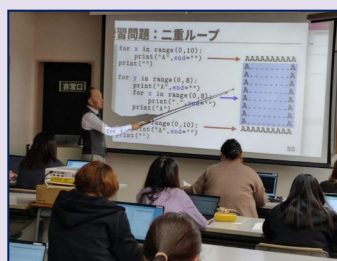
概要: プログラミングを活用している地元企業を訪問し、女性技術者から実際の仕事内容や個々の働き方について、更には就業に必要な今後の学習例について具体的に説明を受けた。

参加者数: 14人(延べ66人) 講座修了後、雇用情報や研修機会などの情報提供を実施

① プログラミング基礎学習



② Python(パイソン)の学習



③ 企業訪問



女性の就業支援成講座(交付金事業①)

各種事業との連携

【連携先】

地元大学、地元民間企業、いばらき就職支援センター ほか

就業支援に関する講座

- ① 資格取得準備講座
ファイナンシャル・プランナー3級
- ② 仕事に役立つ講座
アサーティブコミュニケーション基礎
- ③ 創業塾2024

女性センター指定管理者

日立市らぼーる協会提供事業

女性人材育成講座

女性を対象とした資質向上につながる講座や研修会を開催

- ① 1day女性カレッジ
- ② ロールモデル講座

<女性の社会参画がすすむと...>

女性の就業専門資格取得補助

女性のステップアップを支援

出産・育児

一度離職すると再就職が難しい

資格取得

保育士、宅地建物取引士等就職に直結する資格取得

再就職

経済的自立

教習・受験費用の50%補助(限度額10万円)

様々な制約を持つ女性が社会に加わることで、新たな視点や発想が加わり、多様な人材が活躍できる働き方が生まれる